

令和4年2月25日

奈良保育学院
学院長 中室 雄俊 様

学校関係者評価委員会
委員長 大原 敏敬

学校関係者評価委員会報告

令和2年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づき実施した令和3年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 谷口 偉（奈良市私立幼稚園協会会長、西大寺幼稚園長、光が丘幼稚園長）
- ② 辻村 泰聡（極楽坊あすかこども園長）
- ③ 大原 敏敬（奈良県専修学校各種学校連合会長、大原和服専門学園理事長）
- ④ 平井 成美（奈良保育学院三友会長）
- ⑤ 徳永 明子（元奈良保育学院附属幼稚園長、奈良保育学院第16期卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- | | | |
|--------|------------|------------------------|
| 第1回委員会 | 令和3年6月5日 | （会場 白藤学園 やわらぎホール） |
| 第2回委員会 | 令和3年10月30日 | （会場 白藤学園 やわらぎホール） |
| 第3回委員会 | 令和4年2月19日 | （会場 白藤学園 やわらぎホール／遠隔会議） |

3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

学校関係者評価報告書（最終）

I 重点目標について

1 重点目標1について

重点目標	<p>1. 卒業学年全員の幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得並びに関係分野への就職</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外実習の事前事後指導、進路及び学年担当教員による適切な学生への関わり、全教職員間の情報共有、様々な教育活動等を通して、学生の就職に関する意識の向上を図る。 ・幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得率 100%と関係分野への就職率 100%を目指す。 ・日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格取得率 100%を目指し、コミュニケーション力及び対人関係力の向上を図る。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・採用活動が遅れているケースの有無 ・求人数はどのような状況か。 ・新型コロナの感染拡大で、昨年度の学生と今年度の学生で違いはあるか。学生への影響等はなかったか。 ・学生のコロナワクチン接種率はどのくらいか。 ・実習受け入れ側の園と連携が取れていると感じる。人との繋がりを大切にして引き続きお願いしたい。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関して現時点では数名が未定状態である。求人数は515件を超えている。（昨年507件）卒業までに決定出来るよう指導・サポートを重ねていく。 ・学習面・生活面に関しては、適切な関わりを継続していく。 ・就職については、意識をしっかりと持つように指導を強化していく。 ・今年度は教育実習が9月以降になった為、学習支援員活動と代替授業を設け、対応をした。 ・11月より学生が積極的に就職活動を始めた。今年度はICT機器を使用しての面接もあり、担当者が適切に対応した。 ・新型コロナ対応で、登校時にアルコール消毒・検温を義務付け、行動履歴も記入している。またPCR検査キット・抗原検査キットを購入し、学生の感染を確認している。12月末から現時点で6名の感染が確認された。 ・コロナワクチンの接種率は、1回生が約95%、2回生が約90%である。

2 重点目標2について

重点目標	<p>2. 第三者評価を受審し、職業実践専門課程認定校として充実した教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価を受審することにより、学校運営・教育活動の水準・内容
------	--

	<p>を明確にするとともに、教育の質の保証・向上を図る。来年度に 2 回目の受審を予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 度より実施している学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を継続し、教育課程の改善を図る。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、職業実践専門課程認定校の申請があるが、進捗状況はどのような状況か。 ・第三者の意見を重視して様々な改善をすることは大切な事である。 ・学院の実績を評価してもらうことは大切。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価受審結果に基づく評価機関からの助言や指摘については、教員研修や必要事項の確認により改善している。職業実践専門課程が認定されて 6 年が経過するが、認定校としての意識を常にもち、更に充実した教育・学校運営をマネジメントしていく。 ・職業実践専門課程継続の書類は揃え、奈良県に提出済である。 ・次年度、第三者評価を受ける予定であるが、カリキュラム変更等慎重に行っていく。今年度 12 月 13 日に文部科学省の現地視察があり、指摘された点を改善していく。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人白藤学園の開学者である越智宣哲先生による建学の精神「敬身・敬学・敬事」を基本とし、人格的・知的・情緒的に優れた幼児教育者及び児童福祉従事者を養成することを目指す。開講科目の 70%以上を演習・実習科目として設定し、必要な専門的知識と技能を在学 2 年間で修得する。上記事項は、学則、学生便覧、学校案内パンフレット等各種広報誌、学院 HP に記載しており、学外への公表、本学教職員や法人役員に対しても公表している。 ・教育目標を達成するため、少人数制による教育、幼稚園・保育所・こども園・福祉施設との連携を密にした実習指導を実践。公営ホール（奈良 100 年会館）における表現活動発表会また地域のボランティア活動などを通して、学生個人が目標を持って活動できるような実践的取り組みを実施している。 ・令和 2 年度卒業生は、卒業資格 100%、幼稚園教諭二種免許状取得率 98%、保育士資格取得率 98%、資格・免許取得者における職就職希望者の就職率 100%、ピアヘルパー取得率は 84%であった。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・実習受入れ側としては、将来の保育者として適切な言動が出来るよう養成校として指導をお願いする。 ・保育学院の学生は素直で良い。学校も温かい対応をしていると感じている。 ・保育学院に入学した人は、どの点に魅力を感じていますか。

<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアヘルパー取得率を 100% に近づける。 ・学生の言葉遣いについては、厳しい指導をしていく。 ・学生の資格取得率を上げるために、教職員が時間を惜しんで対応している。 ・授業料が安価であること、駅近、就職率が高いとの結果が出ている。教員による指導が手厚い・教員との距離が適切等の意見がある。 ・良い保育士・幼稚園教諭になるためには、講義や実習を確実に受け、即現場で実践できることを伝えていく。
----------------	--

2 学校運営

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の目標に基づき、学校運営方針を明確に定めている。学校運営方針は年度当初に明示し、職員間で周知されている。また、必要な諸規程も整備できている。 ・学園創設 120 周年を契機に、中期事業計画として「120 周年ビジョン」を策定し、本学の目的、目標を達成するため、関連事業計画を定めている。 ・運営組織や意思決定機能は、学園運営組織表・校務分掌で定めており、組織の構成員・職務分掌と責任を明確にしている。今後、厳しい学園運営も予想される為、理事会・評議員会・各種会議では実効性のある徹底した議論が必要である。 ・領域に対応出来る教員の確保については、設置基準等の定めるところを遵守し、必要人員を配置している。処遇等については、平成 26 年度から「目標管理制度」を実施し、その結果に基づき人事考課を行っている。人事考課の結果は、翌年度の賞与支給に反映させている。 ・平成 27 年度に学園内の LAN システムを構築し、教職員一人一人が PC を持ち、事務の効率化につなげている。今年度は遠隔授業を充実させていく。 ・効率的な学生管理を行うため、学校管理システムの変更が必要である。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi 設備等の充実で、どのような変化があるのか。 ・新型コロナウイルスの感染者はいたのか。 ・オンライン学修と対面授業の併用で効果を上げて欲しい。 ・他校での遠隔授業を参考にして、学生がどの程度授業を理解しているか把握することが大切である。やはり対面とミックスして授業をお願いしたい。 ・保護者としてはグーグルクラスルームをもっと活用しても良いと思う。 ・ポストコロナを念頭に置き、今後の対応を考えることが重要である。
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学園内の施設予約・管理・他部署との情報共有と確認作業が適時行えるようになり、業務の効率化に繋がっている。また、Wi-Fi の充実を図った為、講義にインターネット環境を使用する場合もスムーズに業務が出来ている。 ・対面授業を基本とし、感染防止を意識して講義を行っている。また

	<p>Zoom 等を利用しての授業展開を行っている教員もいる。1 月後半は Zoom を使用して補講等も行った。課題についても遠隔で対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育者養成校なので、対面授業は重要視して良い意味でのハイブリッドを進めていく。 ・ コロナ終息後、完全に元の状態に戻すことは考えていない。スマホ・タブレットを利用して授業スタイルの変更を考えている。 ・ 1 回生 1 名、2 回生 5 名の感染者があり、5 日間の休校措置をとった。
--	---

3 教育活動

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育目標・育成人材像は、本学に対応する人材ニーズに正しく方向付けられており、十分な内容で定められている。 ・ カリキュラムは、文部科学省及び厚生労働省の通知に基づき目標達成に向けて体系的に編成されるよう、監督官庁のシラバスモデルに基づき適正な対応をお願いする。 ・ 目標とする資格はカリキュラム上で明確に定めており、幼稚園免許・保育士資格取得を支援する教育内容となっている。 ・ 成績評価・単位認定の基準は学則に明記しており、その内容に則った成績評価・単位認定の方法及び基準を各教科のシラバスに記載している。実践力向上のため、関係科目における担当者間の情報交換を行い、適切に対応している。 ・ 常勤・非常勤ともに、採用時には履歴書及び教育研究業績書の提出を義務付けている。文部科学省による資格審査に合格し、育成目標に向けた授業を行うことができる教員を確保しているが、5 領域への変更を見据え、学会や研究発表、研究紀要の執筆等を更に奨励していく。 ・ 授業を客観的に評価・分析することを目的として学生による授業評価アンケート（ネット）を実施している。アンケートの集計結果は各教科担当教員へ報告し、授業改善を促している。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各実習における事務的な仕事を受け持つ人的配置は難しいですか。 ・ 学生ファーストの学校として、評価したいと思う。 ・ 学生との人間関係構築は、学院らしさが出ている。 ・ 文部科学省の教員審査は厳しいのか。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習先で保育者への志望意識を涵養できるよう、学校での実習事前事後指導にも力を注いで行く。 ・ 授業評価アンケートは、ネット上で実施。その結果をもとに、教員のコメントを有効活用し、各教員の授業力を向上させていく。 ・ 研究活動については、発表や研究紀要（第 19 号増刊発刊）への投稿により、各教員がしっかりと取り組んでいる。 ・ 職員は、実績のある教員を継続雇用し、授業をサポートしてもらっている。 ・ 専属事務職員の増は難しいが、仕事分担を変更して対応している。 ・ 教員審査は実績や論文等の書物が必須（10 年以内）となっている為、ハードルが高い部分もある。

4 学修成果

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格に関しては、取得率の向上に努めており、取得者数とその推移に関する情報は明確に把握している。令和2年度卒業生は、全員が卒業資格を有したが、幼稚園教諭二種免許状取得率・保育士資格取得率共に98%であった。また、両資格・免許取得者における関係職への就職率は100%を継続した。その他関連する資格として、日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格の取得を目指しており、令和2年度は合格率84%であった。資格・免許取得率及び就職率については、その推移に関する情報を明確に把握しており、引き続き向上に努めていく。ただ、文科省の指導では、全員の受験を再考することを指導された。 ・担任制をとり、学年担当が個々の学生の相談及び指導にあたっている。各授業の様子や欠課時数については教員間で共有し、連絡を密にとる体制を整えている。 ・前年度卒業生の就職先を教員が訪問し、その様子を把握し、離職率の防止に努めている。また、学校案内パンフレット・進学情報誌・公式webサイト・HP等における紹介、就職ガイダンスの講師として招聘することで近況把握を行っている。 ・在学生については、保育・教育実習、地域でのボランティア活動、学外会館での表現活動発表会を通じて、教育・保育・福祉の現場からの評価を把握している。今年度も新型コロナの影響によりボランティア活動が十分出来なく、学生のモチベーションを工夫して高めていきたいと考えている。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新人保育士は、特に大事に育てている。就職してもらったら長期間勤めてもらうことが、園にとっては大切な事である。卒業生と繋がり、園を先生方が訪問してくれることはありがたい。 ・娘から実習先に先生が訪問して下さったことを聞いて、大変感謝している。 ・学生が相談できる体制も整っていると感じる。手厚い指導だと思う。 ・コロナ禍で大変だと思うが、求人状況について変化があるか。今年の就職状況はどのような感じか。 ・表現学修成果の集大成である「表現活動発表会」が開催予定なので、ホッとしている。 ・附属幼稚園・保育所（次年度開園）と連携を更に強化して欲しい。 ・卒業生からの講話や体験談を実施して頂いているが、その回数を更に増やしていただくことは出来るのか。 ・実習の大切さをしっかりと教え込み、モチベーションを上げることもお願いしたい。 ・教員のモチベーションを上げることにより、家庭的な雰囲気継続してもらいたい。精神的に疲れている可能性もある。

<p>学校側の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・養成校として現場との差異を少しでも緩和できるよう、実習科目等の実務家教員による指導の強化、様々な内容を含めた講習会の実施等に力を入れていく。 ・2月15日現在515件の求人が届いている。今年も新型コロナの影響で園の様子を動画等で見せてもらっている場合がある。学生の希望を聞きながら、また状況を見ながら働きかけを行っている。就職内定者も報告が随時なされている。100%を目指し、取り組みを継続する。 ・実習先訪問は、昔から実施されているので、今後も継続していく。 ・表現活動発表会は入場者を制限し、感染対策を万全にして開催した。また、附属幼稚園・高等学校の保育進学と打合せ会議を行い、連携を強化している。 ・卒業生や現場の講話は、非常に大切な事であり、より一層充実させていく。 ・教員のモチベーションを上げられるよう取り組みをする。
-----------------	---

5 学生支援

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の就職・進学指導に関する体制（キャリア担当）を整備し、就職・成績・生活面等、随時個人面談を実施している。また、成績不振学生の保護者には督励文書の送付や担任面談を実施しており、その他指導または配慮を要する学生の保護者にも必要に応じて連絡・面談を実施している。面談結果は、文書に残し保管している。 ・学費に関する支援体制は、奨学金制度、学費分納制度、緊急時貸与制度を整備している。奨学金制度は、日本学生支援機構を利用している。 ・学生の健康管理体制は、学園共有の保健室に養護教諭が常駐しており、学院の教員と連携しながら対応している。コロナ関係については、PCR検査キットや抗原検査キットを購入し、対応している。 ・クラブ活動は学生の自主性に任せており、自治会役員とクラブ部長を中心として、自治会担当教員と連携しながら活動を実施するが、今年度は、活動出来ていない。また、クラブに関する規程は学生便覧に明記済である。 ・卒業生への支援体制は、同窓会組織があり、定期的に総会や役員会を開催している。また、就職担当教員を中心に卒業生の就職先訪問や転職希望者への情報提供・面談などを実施しており、卒業後の支援体制も整っている。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリの活用状況はどのような感じか。 ・人材確保はどのように行っているか。 ・SNS時代に則した対応をお願いします。 ・YouTubeチャンネルを開設して、学生がより分かりやすい企画をしてはどうか。
<p>学校側の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会組織については、HPとアプリを利用して情報を提供している。スマホにアプリを無料ダウンロードして使用。保育学院の情報・学園の情報を通知し、同窓会情報・求人も発信している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホの性能が良くなり、PCやタブレットと同様のスペックを活かし、利用している。またGoogle Classroomを活用して、授業の幅を広げている。 ・YouTube（オンデマンド型）を使用して行えることが必要だが、ZoomやMeetを使ってのリアルタイム配信を充実させているところである。
--	--

6 教育環境

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は全校舎とも耐震基準を満たしており、適切にメンテナンスも実施している。セキュリティ管理は、監視カメラの設置、警備保障との契約、通用口の施錠、侵入防止塀等を設置している。今後も安全管理に関する意識向上に努め、危険及び事故防止に努めていく。 ・大規模地震に対応した消防防災訓練実施マニュアルを学園として作成しており、学園防災避難訓練を定期的実施し、危険物等の管理も徹底している。防災備蓄については、平成28年度より補充・管理しており、災害への備えを万全にすべく現在も体制を整えている。 ・実習に関しては、学外の関係機関と連携して十分な教育体制を整備しており、事前事後指導を徹底し、指導にあたっている。今年度は前期のすべての実習が9月以降となり、タイトなスケジュールで進んだ。また、1回生施設実習においては、代替授業を計画している。 ・今年度は、実習の代替として授業と学習支援員活動を導入している。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も実習等が後ろ倒しとなっているが、期間等は大丈夫か。 ・授業回数も厳しいが、規定時間数（15時間）が確保されているのか。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園への教育実習は非常にタイトな日程となるが、学習支援員活動を導入して時間数確保を行っている。 ・授業回数については、教務が工夫をして規定時間数を確保している。1月にコロナの影響で3日間の遠隔授業をZoomで実施した。 ・幼稚園・保育所・施設等を含めた関係先へのボランティアを含め、活動を促進していきたい。今年度もボランティア活動が制限されているため、日程調整で困っている。保育所実習・幼稚園実習は、近隣の保育園並びに本学院附属幼稚園にて学習支援員活動を行っている。今後も実習を重視し、実践力を養成していく。

7 学生募集と受入れ

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は日程調整を重ね、次年度の入学者獲得に向けて広報活動を継続している。学校案内は志願者や保護者の立場を考慮した内容となっており、問い合わせや相談への対応は、広報担当教員が適切に行っている。 ・入学者選考は公平性を保つために全教職員が関わり、筆記試験及び面接の結果を踏まえて総合判定している。志願者数は年度による増減が見込まれるため、少子化や大学・短大志向の影響・高等教育無償化を
----	--

	<p>考慮し、高校訪問の回数・進路相談会等への参加を強化している。今年度、初めて総合型選抜（AO）を導入した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学納金は、他の大学・短期大学・専門学校と比べて安価であり、学生・保護者の大きな負担はない。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人が入学してくる場合もあると思いますが、新卒学生と上手くやっているか。 ・高等教育無償化の影響はどの程度出ているか。 ・丁寧な対応のおかげで募集定員が充足していると感じる。 ・白梅寮からの受験生は、変化があるか。 ・「学費が安い」や「駅近」以外の理由を挙げて欲しい。例えば、「教員との距離」や「面倒見がよい」等をアピールして欲しい。 ・保育士試験受験者と養成校出身者の違いを比較して広報出来ないものか。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人経験者は年々増加傾向にある。また高卒認定試験合格者も微増している。 ・社会人経験者は学生間でリーダーシップをとってくれている。 ・進学情報媒体の内容等について、応募実績を検討の上、本学院の特徴である就職実績・実習指導・学生との関わり等を猛アピールして学生募集に繋げていきたい。 ・授業料が安価であること、駅近、就職率が高いとの結果が出ている。それ以外のアピールポイント（教員の質・学修内容等）を全面に押し出し、対応をしていく。 ・良い保育士・幼稚園教諭になるためには、講義や実習を確実に受け、即現場で実践できることを伝えていく。 ・昨年から高等教育無償化の影響が大きく出てきている。寮に関しては特に遠方からの受験者が激減している。入試改革だけでなく、寮の方針も見直す時が来ていると考える。規則等の変更も踏まえ、協議を継続していきたい。また知名度を上げるため、新たな広報媒体を用い、対応したい。 ・総合型選抜の充実を含め、募集方法の多様化に対応していく。 ・様々な要因があるが、今までの指導方法から IT 時代の指導方法に寮や学院も変化をする時にさしかかっている。高校生が今求めている生活を再度検討し、学生募集に繋げていきたいと考えている。 ・インターネット出願も検討事項として挙げている。

8 財 務

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・財務基盤は必ずしも安定しているといえない。学園全体の財政基盤を確立させるため、引き続き学生・生徒・園児数の定数を確保していく必要がある。（学院は定員の 110%で募集をしている） ・年度予算は、教育の充実と費用効果等を勘案し、適切に編成および執行しており、会計監査人及び監事の監査は、定期的かつ適切に行われている。
----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・財務状況の公開については、学園 HP にて公開しており、その他必要に応じて開示している。 ・奈良市立大宮保育園を次年度から本学園が運営することになり、更なる安定が見込まれる。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数減少が続き、今後も募集活動は厳しくなるが、保育学院は今後定員数を確保できるのか。 ・HP 等に学校情報を載せることは、外部の視点からとても大切なことである。 ・保育園の運営で財務的に安定が見込めるのか。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・財務管理は法人が厳正に行っている。本学院の定員数は充足されているが、学園全体としての財務状況は依然厳しい。教育を取り巻く状況は日々変化していく中、法人の幼稚園・高等学校・保育学院組織が丸となって対応していく。 ・当然、入学者数により学園全体に影響が出るため、定員確保には今まで以上の広報活動をしていく。 ・HP やアプリで学校行事・授業の様子等を掲載しているが、更に様々な情報を発信していく。 ・保育園の運営により、安定を確保したい。

9 法令等の遵守

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・法令や設置基準は遵守している。 ・学校が保有する個人情報に関する保護対策及び教職員への周知徹底は出来ている。学生に対しては、SNS 等への書き込み・メディア機器を通じた情報流出が社会問題となっていること、特に学外関係機関で知り得た情報を意図の有無に関わらず流出させた場合には、懲戒処分に値する旨を学生便覧へ追記し、その重大さと守秘義務を教授している。 ・平成 26 年度より学園共通の職場におけるハラスメント防止に関する指針を策定し、相談マニュアルを作成している。 ・自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めている。平成 26 年度より学校関係者評価委員会にて評価を実施し、平成 27 年度より評価結果概要及び報告書を毎年 HP 上で公開している。 ・教員養成校としての基準を確実に守っていく。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍では、法令順守に留まらず、リスク管理についても取り組んでいる学校もあると聞く。リスク管理は大丈夫か。 ・私の園でも子ども・保護者に対し、個人情報の管理・SNS での何気ない配信等を含め理解・協力できるよう気を付けている。 ・新型コロナの影響で各実習や免許・資格取得が本当に出来るのか心配。 ・卒業単位まで授業時数を確保できているのか。 ・社労士の話によると職員の勤務時間対応が難しいとのことであるが、どのような対応をしているのか。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS の使用については、入学時に学生へ同意確認を採っている。実習前には、オリエンテーション及び事前指導において、指導を徹底させ

	<p>ている。実習 2 週間前から体調管理表・行動履歴を作成し、実習先に提出することも実施している。また PCR 検査を受け、陰性確認を行い実習に参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時数は教務が確実に調整を完了している。資格取得においても不安なく実行出来ると考えている。 ・SNS については実習先での不用意な発信、園児のプライバシー保護も考え、行動するよう指導している。また SARTRAS の保障も完了している。 ・文科省の指導により、コアカリキュラムの編成を再考している。 ・勤務時間等については、土曜日の振替等で対応をしている。
--	--

10 社会貢献・地域貢献

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社会および地域貢献活動として、平成 26 年度より、幼稚園教諭免許状保有者を対象とした保育士資格取得制度（特例教科目講座）を開講している。また、例年、指導機関の奈良教育大学と連携して、幼稚園教諭免許状保有者を対象とした免許状更新講習会を実施している。ただし、今年度も感染防止を優先し、中止とした。 ・子育て支援センター・地域の催し参加・出張公演等・ボランティア活動の積極的な参加を促進・奨励しているが、関係機関と相談の上、中止または延期の措置をとらざるを得なかった。学生の活動は HP 等を通じて広く公開している。学校は、社会への情報発信や地域活動の拠点としての役割も担っていることを認識し、活動に取り組んでいく。 ・学園全体として環境問題への啓蒙活動を実施している。学園周りの花壇の整備や空調の温度管理も実施している。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動等ほどの程度中止、延期となっているのか。 ・新型コロナ終息後、ボランティア活動の日程再調整があるのか。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・学園周りの花壇に花植えを行っているが、学生が進んで手伝いをしている。 ・資格取得講座及び教員免許状更新講習会は、来年度以降も感染防止を考慮しながら引き続き実施していく予定である。 ・地域の催しに積極的参加を促し、地域貢献を果たしていく。夏期のボランティアについては、ほぼ中止となったが、後期については出来る限り参加を促したい。